

生涯学習・社会教育関係職員研修講座

「中堅職員研修(第1回)」

日時:平成27年6月17日(水)

会場:青森県総合社会教育センター 第1研修室

1. 講義「今、社会教育に求められているものと社会教育行政の役割、生涯学習社会構築に向けて」

生涯学習・社会教育関係職員研修講座(中堅職員研修 第1回)が6月17日(水)、当センターで実施されました。20名の社会教育関係職員が参加し研修が行われました。午前中の講義では茨城大学社会連携センター准教授 長谷川 幸介 氏より社会教育行政の課題・役割等について要点を絞って、わかりやすく説明していただきました。受講者は真剣な表情で話を聞いていました。

【講義の様子①】



【講義の様子②】



【講義の様子③】



【講義の様子④】



【4種類の民】

- ① 土着の民
- ② 定着の民
- ③ 漂泊の民
- ④ 異国の民

4種類の人々が
ひとつの社会の
幸せをつくって
いく

【4つの縁】

- ・ 血縁
- ・ 地縁
- ・ 友縁
- ・ 職縁

社会は4つの縁で
結ばれている

※大きな変化に
直面している

【講義の概要】

- ・ 社会教育とは人間の**幸せ**を求める学問、その幸せをどうつくるかが大きな課題である。
- ・ 人間は本能だけでは生きられない。そのために学校という仕組みをつくり、**学力**という人間が生きていくために必要な幸せになるための**知識**や**技術**を学校で学んできた。
- ・ 学校で教えることは幸せになるための知識や技術であり、他と**比べる**ことではない。

2. 演習

午後は引き続き、茨城大学社会連携センター准教授 長谷川 幸介 氏より演習が行われました。受講者からの意見を取り入れ、各地域が抱える実践的課題である「地域と学校と家庭のつながり」をテーマにグループワークが行われました。各グループで様々な意見が出され、和やかな雰囲気での話し合いが行われました。最後にグループの代表に発表をしてもらい、長谷川氏に総括していただきました。

【演習の様子①】



【演習の様子②】



【まとめ（Aグループ）】

- ・子ども会の減少、町内会イベントの減少、学校と地域の交流の減少など課題を提示。
- ・課題解決のため、子どもの力で地域と学校と家庭のつながりを深めていく「**4・2・3プロジェクト**」という解決策を提案。
※「4・2・3プロジェクト」…赤ちゃんは4足、成長すると2足、高齢者になると杖を使用し3足歩行になることからネーミングされた。（子どもから高齢者まで、地域みんなの力で地域課題を解決していこうというプロジェクト）
- ・学校では全学年で実施し、地域の方々が学校に入っていける環境作りの整備をしてもらう。
- ・地元企業の協力を得ることや地域の高齢者の知恵力も重要。
- ・教育委員会から学校へのアプローチが必要。

【まとめ（Bグループ）】

- ・アクティブシニアの社会参加、他者とつながりを持たない高齢者、団体の高齢化と組織改革、情報社会についていけない高齢者など、高齢者の様々な課題を提示。
- ・公民館や集会所などを活用し、**魅力ある情報**を発信することで高齢者に集まってもらう。
- ・イベントは昼食会、カラオケ、ラジオ体操など何でも良い。ノミネーションなども効果的。
- ・対象はシニア世代だけでなく、異世代交流として子ども達とのイベントを行う。
- ・既存のシニア会員、年層の会員、ともに意識改革が必要。座談会など話し合いの場を持つことが重要。
- ・高齢者自身が講師としてイベントで活躍できる場を提供する。町内会同士の交流も肝要である。

【演習の総括】

- ・学校と地域と家庭のつながりで一番重要なのは子ども。子どもこそが主役であり要。
- ・**GBPTA（ジジババPTA）**など新しいコミュニティの動きがでてきている。
- ・地域の高齢者はPTAにあまり関わることができないが、一緒に活動するのがベスト。
- ・高齢者の年齢はイタリアが68歳、ドイツは69歳、日本は65歳からになっているが世界中で決まりはない。高齢者とは**役割**ではない。

〈講師プロフィール〉



長谷川 幸介 氏（茨城大学社会連携センター 准教授）

1975年 茨城大学人文学部経済学科卒業

【著書】

- ・『今を生きる人間学』「混住列島に生きる」（文真堂）
- ・町内会物語（文真堂）
- ・懲戒・体罰の法制と実態（学陽書房）
- ・生涯学習とまちづくり（学陽書房）